





君の腕の中で
凍える冬を
すごそう
R18



土の中は
どこまでも暗く
そして空っぽだった



傍らの亡骸には
在りし日の温もり
などなく

この冷たい体温と
土の体温が

自刃をどこまでも
凍えさせていく

それと同調し
思考すらも
凍てつくようだ

自分とは果たして
何であったか

鶴丸国永は
生きる事に
渴望している



三日月宗近×鶴丸国永
※多少の流血描写有り





最近よく

俺の部屋へ
来るが…



…そうか？



…どうした？



…お前は

…

いや

なんでもない



寒い冬は
苦手だ







俺にもわからん

…が

なんだろうな



…さてな



ただ無性に

体が空っぽな
気がしてな

腹が空いたのかと
思ったんだが…



腹を満たしても
おさまらん

どうしたものかな…





そうなんだが…

：しかしそれで
腹を壊しては
意味がないだろう



それとも…

俺の愛で
満たしてやろうか

は？



おいおい
何する気だ

はっはっは

観念するのだな



今日はこうして
寝てやろう

おい三日月…



…でも

これはいいな



それは少し
我慢してくれ

…ははっ
君の息が
くすぐったいな



……

よく眠れそうだ







人とは
生まれ落ちた
瞬間から

生きる欲を
得るといふ

何なのだろうか
この感覚は

腹が減った…

光忠に
夕餉の残り物が
あるか聞こうか…

ああ…
それよりも

今日は一段と
よく冷える



敵兵を確認した

戦闘に入る



さむい

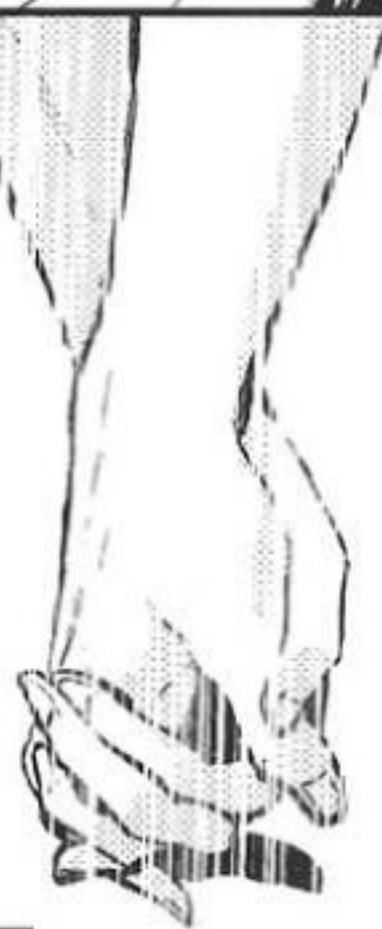
さむい



気持ち悪い



ああ…
温かいな



鶴丸









この体の痛みと

傷の痛み

血の匂い



湿った足と

泥の感触



むせ返る
土の匂い



これは

ああ



死の匂いだ



冷たい

強くなって
きたな...

雨...

冷たい

あつさ





……そうだな

もうすぐ夕餉だ
それまでに湯浴みでも
してきたらどうだ



お前の手は……
随分冷たいなあ

それは
良かった

……君の手は
いつも温かいな

……



君のそう好きう
とところ好きうだぜ

そうか？
それは嬉しいなあ

三日月

ああ…



安心するものだと知ったんだ

人の体温が

初めて

君のおかげで



出来れば…

出来る事なら…



今すぐ

君の
傍に



……



そこは
ただ暗く

何を感じる事も
なかった



…あの時

俺はどんどん
空っぽになっ
ていった

鶴丸国永が
なくなっていく

ゆっくりと

確実に





ただ
朽ちていく自分を

見つめるしかなく



それが

無性に

虚しかった

……でも



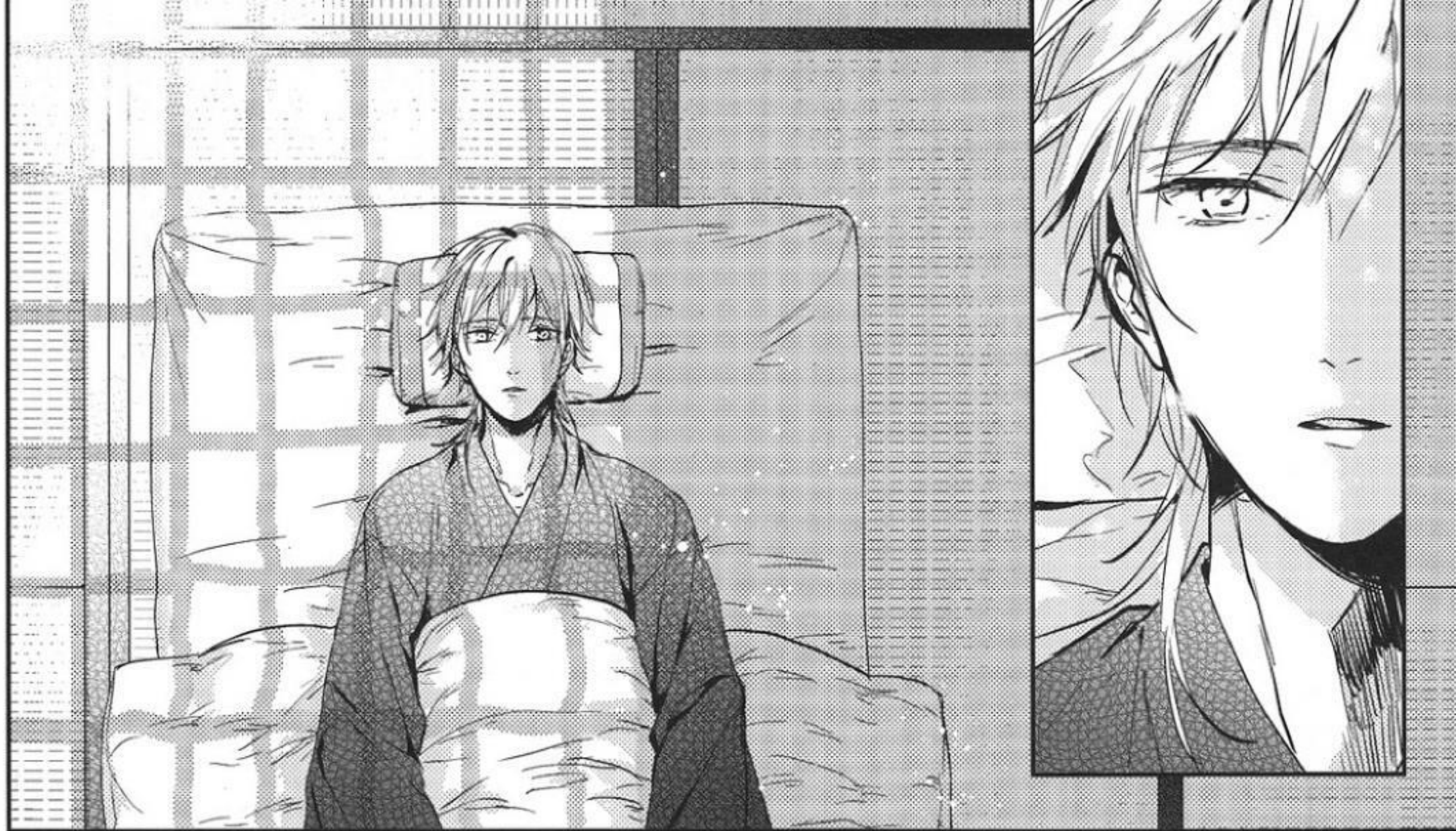
あたたかい



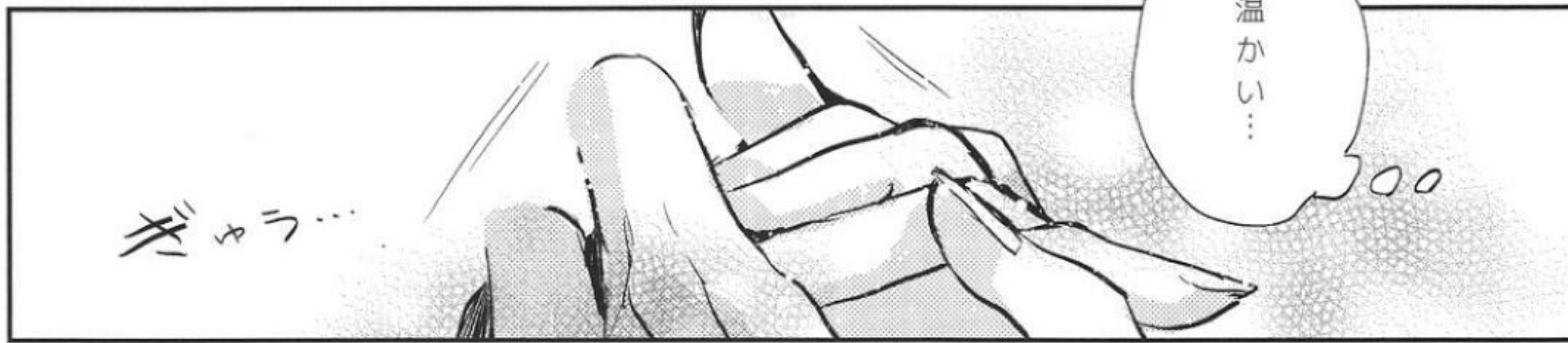
なぜだか
ここは



あたたかい







なと
んどう
事

生きる



…あまり
このじめんでいの心臓を

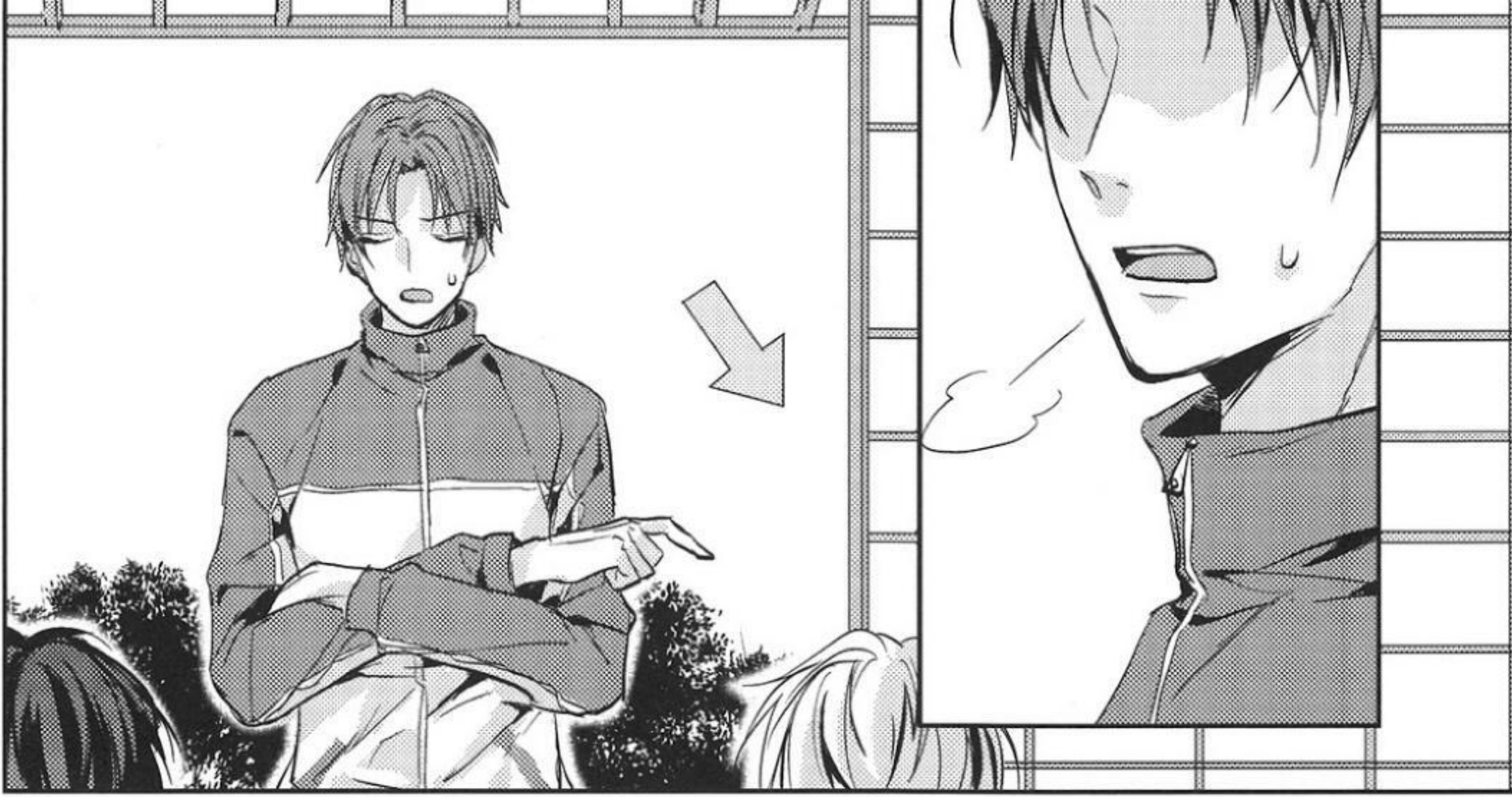


人の体を得て



欲を得た







人の感情
というものが



肉の体に
染み渡っていく



今なら

分かる気がする

ただただ個を
奪われるだけの
土の中に

それでも

俺を傍に置いた
お前の気持ち

欲とは
ままならないものだ

鶴丸国永は
生きる事を
理解する

君の腕の中で
凍える冬を
すごそう

こんにちは、うにです。

この度は本をお手にとって頂きありがとうございました。

みかつる沼に落ちてはや1年弱…時間の早さに驚きをおかせません。

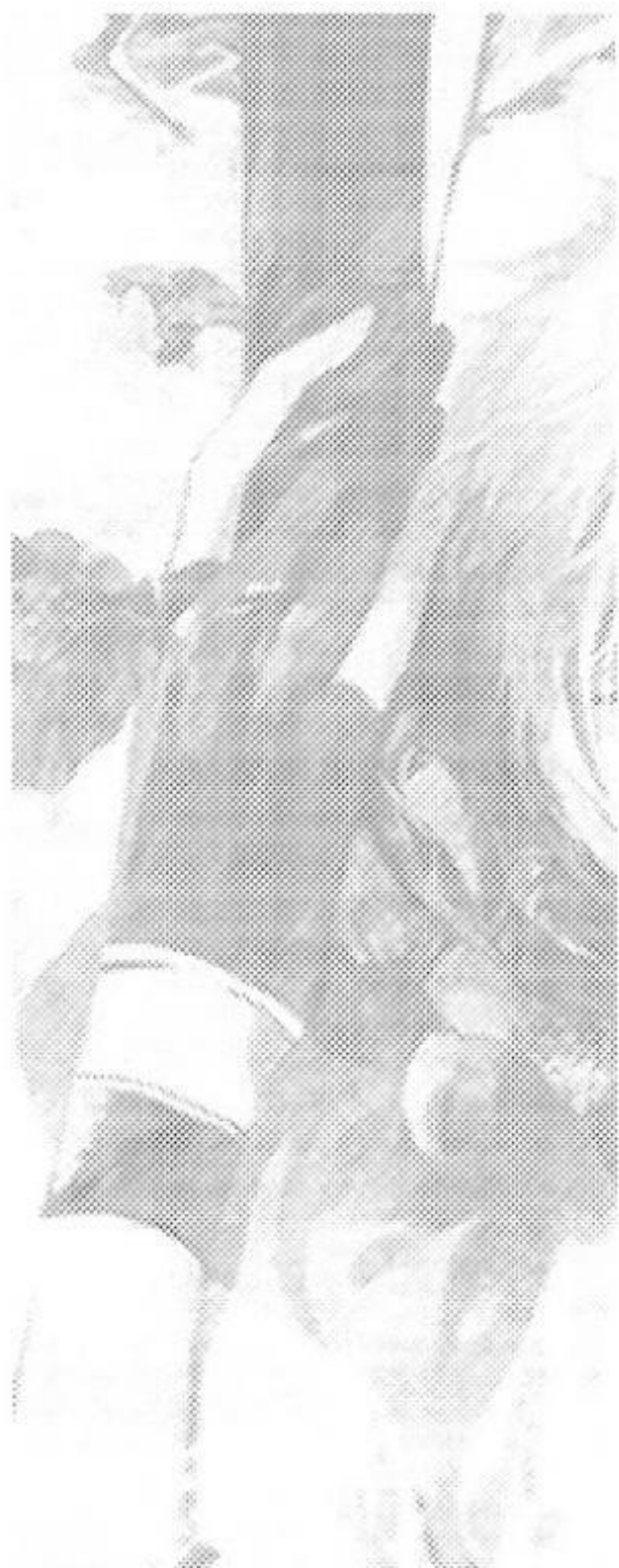
今回は神様っぽい鶴丸を描きたくて、

「人の体を持て余している鶴丸とそんな鶴丸が心配な三日月」

を目指して描きました…が目指すものが難しすぎて手に負えませんでした(^▽^)

もっとシリアスな薄暗い雰囲気にするつもりが、いざ描き終えたら相変わらずの少女漫画感で…反省は多いですが楽しかったです。

最後の長谷部は鶴丸の見舞いに来ています。



三日月宗近×鶴丸国永

発行 2015.11.29

印刷所 金沢印刷様


大変お世話になりました

うに/ストロボコース

pixivID:89995

twitter:uni_3232

mail:natumikan120@hotmail.co.jp



刀劍愛本#3
三日月宗近× 鶴丸国永
2015.11.29 発